

# 2018(平成30)年度 全国学力・学習状況調査

## 逗子市の結果について

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第6学年児童 459名
- 逗子市立中学校第3学年生徒 318名



### (3) 調査の内容

#### ①教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科)

- ・国語A, 算数・数学A: 主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B, 算数・数学B: 主として「活用」に関する問題を中心とした出題
- ・理科

#### ②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

### (4) 調査の方式

悉皆調査

### (5) 調査日時

2018年(平成30年)4月17日(火)

### (6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」「理科」の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

| 教科   | 逗子市正答率 | 神奈川県正答率 | 全国正答率  |
|------|--------|---------|--------|
| 国語 A | 74.0 % | 70.0 %  | 70.7 % |
| 国語 B | 57.0 % | 54.0 %  | 54.7 % |
| 算数 A | 69.0 % | 64.0 %  | 63.5 % |
| 算数 B | 57.0 % | 52.0 %  | 51.5 % |
| 理科   | 62.0 % | 60.0 %  | 60.3 % |

(中学校)

| 教科   | 逗子市正答率 | 神奈川県正答率 | 全国正答率  |
|------|--------|---------|--------|
| 国語 A | 73.0 % | 76.0 %  | 76.1 % |
| 国語 B | 59.0 % | 62.0 %  | 61.2 % |
| 数学 A | 65.0 % | 66.0 %  | 66.1 % |
| 数学 B | 45.0 % | 48.0 %  | 46.9 % |
| 理科   | 64.0 % | 66.0 %  | 66.1 % |

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|  |   |
|--|---|
| <p>結果の概要</p>                           | <p>○国語 A(主として知識)においては、本市の平均正答率は、全国平均+3.3 ポイント、神奈川県平均に対して+4 ポイントと、全体には全国・神奈川県をやや上回る結果と言える。国語 B(主として活用)においては、本市の平均正答率は、全国平均に対して 2.3 ポイント、神奈川県平均に対して 3 ポイント上回る結果となっている。</p> <p>●基礎的・基本的な知識は、一定数の児童にはほぼ身につけていると言えるが、それを活用して、相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることや、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについて、依然として課題が見られる。</p> |
| <p>話すこと<br/>聞くこと</p>                   | <p>○計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることについては、特に、話し合いの様子の一部における司会の発言の役割として、適切なものを選択する問題で全国平均正答率より 7.7 ポイント上回っている。【B1二】</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることについて課題がある。【B1三】</p>   |
| <p>書くこと</p>                            | <p>○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える選択型の問題では、全国と県の平均正答率を約 5 ポイント上回っている。【B2一】</p> <p>○記述型の問題において無回答の率が全国と県よりも低かった。【B1三】【B2二】</p> <p>●目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことについて課題がある。【B2二】</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むという趣旨の記述型問題の正答率は 5 割にとどまっている。【B3二】</p>   |
| <p>読むこと</p>                            | <p>○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことについて、全国と県の平均正答率を 5 ポイント以上上回っている。【B3一】</p> <p>○登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることについて、全国と県の平均正答率を上回っている。【A4】</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むという趣旨の記述型問題の正答率は 5 割にとどまっている。【B3二】</p>   |
| <p>伝統的な言語文化と<br/>国語の特質に関する<br/>事項</p>  | <p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことについて、相当数の児童が出来ている。【A6】</p> <p>○相手や場面に応じて適切に敬語を使うことについて、全国と県の平均正答率をや 5 ポイント程度上回っている。【A7】</p> <p>●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことについて正答率が 4 割 6 分にとどまっている。【A5】</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについて、課題がある。【A8アエオ】</p>  |
| <p>児童質問紙<br/>国語に関連する質問<br/>5 5～5 9</p> | <p>○『学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか』という質問に対して 4 分の 3 の児童が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えている。</p> <p>●『5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか』という質問に対してと 4 割近い児童が「当てはまらない・どちらかといえばあてはまらない」と答えている。</p>  |

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、それらを活用して、相手の考えを理解し自分の考えを分かりやすく伝える力を高める学習をより一層充実させる必要がある。

単元の取組の中で、児童が伝えたい事柄を明確にさせ、読む人に伝わる表現であるかどうかを判断させるなど、『子どもの主体性を高める授業づくり、授業改善』を図っていくことが大切である。

また、授業のふり返りを工夫し、取り組みの過程における自分の考えの深まりや広がり表現する力を高めていく必要がある。

領域および内容ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【話すこと聞くこと】

相手の意図を捉えながら聞くためには、自分に伝えたいことは何か、ともに考えたいことは何かなど、話の内容を十分に聞き取ることが大切である。また、相手と自分の意見を比べて考えを述べるためには、どこが共通するのか、どのような点が違うのかなどを、具体的に明示しながらまとめて話すことができるように指導することが大切である。

特に、公開討論の形式などのような話し合いの場合には、話し手は話題について十分に調べ、自分の考えを形成しているのに対し、聞き手の準備が不十分であることが見受けられる場合もある。学習の場面では、話し手と聞き手が共に自分の考えをもって話し合いに臨むことができるような指導が重要となる。

## 【書くこと】

物語を創作する際には、読者が展開に期待をもって読むことができる構成を考えて書くことが大切である。効果的な構成を工夫するためには、これまでに読んできた物語を構成という観点で読み返し、それぞれの特徴とその効果を整理するなど、読むことの学習との関連を図ることが有効である。構成を工夫することのよさや大切さを自覚し、自身の作品に生かしていくことができるように指導することが大切である。

自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分に伝わるように書くためには、複数の資料から情報を得て、詳しく書くことが必要となる場面がある。その際、得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係づけて捉えたりすることが大切になる。また、情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるように指導することが大切である。

## 【読むこと】

目的に応じて、複数の本や文章を読み重ねたり、読み比べたりするなど、効果的な読み方を選択して活用することは重要である。伝記には様々なものがあり、同じ人物の伝記であっても、複数の本を選んで読むことで、取り上げられた人物の生き方や人生などをより深く知ることができるということについて指導することが大切である。また、人物の生き方や考え方、その偉業を意味づけるという点から、同じ本の中でも、事実の記述や説明の表現が一つではなく複数用いられていることが多い。それらを結びつけながら読む指導も大切である。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

主語と述語は、文の骨格をなすものであり、明確な文を書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であることについて、文章を読んだり表現したりする時に強く意識できるように指導する必要がある。

高学年は、敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるため、相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れるようにすることが重要である。日常生活の具体的な場面と関連させ、いつ、どのようなときに誰に対してどのような敬語を使うことが適切であるかを考えるなど、児童が自覚的に敬語を使用することができるような指導が大切である。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|   |  |
|---|--|
| <p>結果の概要</p>                            | <p>算数A（主として知識）においても、算数B（主として活用）においても、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均を上回り、全体的に良好な結果といえる。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、多くの児童にほぼ身につけているといえるが、それを活用して思考する力については、課題が見られる。</p>  |
| <p>(算数)<br/>数と計算</p>                    | <p>○基本的な四則計算（整数、小数）や、数の大小関係については、多くの児童が理解できている。【A 1（1）（2） A 3】</p> <p>○1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることが理解できている。【A 1（3）】</p> <p>●小数の除法の意味の理解について課題がある。【A 2】</p>   |
| <p>(算数)<br/>量と測定</p>                    | <p>○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を多くの児童が理解している。【A 4（1）】</p> <p>○<math>180^\circ</math> や <math>360^\circ</math> を基に分度器を用いて、<math>180^\circ</math> よりも大きい角を求めることについて多くの児童が理解できている。【A 5（2）】</p> <p>●単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解について課題がある。【A 4（2）】</p> |
| <p>(算数)<br/>図形</p>                      | <p>○示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することについて、多くの児童が理解している。【A 6】</p> <p>○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができている。【B 1（1）】</p> <p>●円周率の意味について理解することに課題がある。【A 7（1）】</p>  |
| <p>(算数)<br/>数量関係</p>                    | <p>○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることについて、多くの児童ができています。【A 9】</p> <p>○示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができています。【B 2（1）】</p> <p>●メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目することを解釈すること、またそれについて記述することに課題がある。【B 3（1）】</p> <p>●棒グラフと帯グラフから読み取れることについて、適切に判断することに課題がある。【B 3（2）】</p>                  |
| <p>児童質問紙<br/>算数に関する質問<br/>問 27～問 37</p> | <p>○67%の児童が「算数が好きだ」と回答しており、92%の児童が算数の勉強は大切だと思うと回答している。</p> <p>○70%の児童が新しい問題に出会ったときに解いてみたいと思ひ、80%の児童が解き方がわからなくても諦めずにいろいろな方法を考えると回答している。</p> <p>○88%の児童が算数の授業がよくわかると答えており、全国平均と神奈川県平均を上回っている。逗子市の児童は全体として、算数の学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。</p>                   |

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり、記述したりする学習に取り組む必要がある。生活場面における事象と算数の内容を関連付け、学習した用語を用いて自分の考えを的確に表現できるようにする。領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

## 【数と計算】

\* 図や数直線を用いて、数量の関係を的確にとらえ、立式することができるようにすることが大切である。問題場面を図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動を取り入れていきたい。その際、乗法の問題場面と除法の問題場面を表したテープ図と数直線を合わせた図を比較することができるようにすることが大切である。その上で、割合に当たる大きさを求める場合には乗法が用いられ、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにすることが大切である。

## 【量と測定】

\* 混み具合を調べる際には、単位面積当たりの人数を比べる場合と、単位人数当たりの面積を比べるので、どちらを単位量として設定するかについて、適切に判断できるようにすることが大切である。面積と人数のどちらか一方の量がそろっていれば混み具合を調べることができることを基に、単位量を1にそろえて混み具合を比べる活動が考えられる。その際、式の意味を問題場面や図と関連付けて捉えることができるようにすることが大切である。

## 【図形】

\* 図形の学習においては、図形についての感覚を豊かにし、図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切である。そのためには、単なる知識として図形の性質を指導するのではなく、活動を通して図形の性質を見いだすことにより、その性質の理解を深められるようにすることが必要である。

\* 円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにすることが大切である。

## 【数量関係】

\* グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるようにすることが大切である。指導にあたっては1つのグラフから複数の児童が読み取った情報を、総数や変化といった観点で分類し、それぞれの情報について意見を出し合う活動等を取り入れていくことが大切である。

\* あるグラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連づけながら考察できるようにすることが大切である。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学理科）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| <p>結果の概要</p>                          | <p>○理科において主として「知識」に関する問題については、本市の平均正答率は全国平均と同率で、神奈川県平均より 4 ポイント上回っている。また、主として「活用」に関する問題については、全国平均、神奈川県平均を約 3 ポイント上回る結果となっている。</p> <p>●基礎的・基本的な知識は、一定数の児童はほぼ身につけていると言えるが、理科の学習で学んだ知識・技能が実際の自然や日常生活など他の場面で活用することについては、全国平均、神奈川県平均を上回っているものの、課題が見られる。</p>  |
| <p>物質</p>                             | <p>○ろ過の適切な操作方法を身に付けていることについては、全国と県平均の正答率を 3 ポイント以上上回っている。【4（1）】</p> <p>○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適応できることについては、9 割以上の児童が正答している。【4（3）】</p> <p>●実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できることについて、いわゆる活用に関する解答に課題が見られる。</p>   |
| <p>エネルギー</p>                          | <p>○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できることについては、全国と県平均の正答率を約 3 ポイント上回っている。【3（3）】</p> <p>●太陽の 1 日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適応できることについては、全国と県平均を 6 ポイント上回っているものの、50% 以下の正答率しか見られない。【3（4）】</p>  |
| <p>生命</p>                             | <p>○安全に留意し、生物を愛護する態度を持って、野鳥のひなを観察できる方法を構想できることについては、8 割以上の児童が正答している。【1（1）】</p> <p>●人の腕が曲がる仕組みを模型に適応できることについて課題がある。【1（4）】</p>  |
| <p>地球</p>                             | <p>○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解していることについては、8 割以上の児童が正答している。【2（1）】</p> <p>○より妥当な考えをつくりだすために複数の情報を関係付けながら、分析して考察できることについては、全国と県の平均正答率を 4 ポイント以上上回っている。【2（4）】</p> <p>●より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容記述できることについては、課題がみられる。【2（3）】</p>  |
| <p>児童質問紙<br/>理科に関する質問<br/>問 38～53</p> | <p>○「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」という質問に対し、64.2%の児童が「当てはまる」回答し、さらに「観察や実験を行うことが好きですか」という質問に対しと 57%の児童が「当てはまる」と回答している。</p> <p>○「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」の質問に対し「週 1 回以上」と回答した児童が 48%いて、全国、神奈川県平均より上回っている。</p> <p>●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に対し、25.8%の児童が「当てはまる」と回答しているが、全国、神奈川県平均より下回っている。</p> |

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識の習得を図るとともに、理科で学んだ知識・技能が実際の自然や日常生活などに当てはめて用いることができるかどうかという「活用」に対する力を高める学習を一層充実させる必要がある。

単元の取組の中で、理科に関する知識・技能が身につけているだけでなく、観察、実験を中心とした問題解決による学習活動や、実際の自然や日常生活の中で、身に付けた知識・技能が発揮されることが重要である。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【物質】

\*観察や実験の際には器具を使用することで、その操作方法が身につくものである。さらに、器具の適切な操作方法を身に付けることができるよう、器具の操作方法だけでなく、器具を使用する目的や操作の意味を捉えることが大切である。

\*「物の溶け方」については、水に溶けたものは視覚的にとらえることができないため、重さをはかり定量的な見方を働かせることができるようにしたり、絵や図等を用いて表現することで質的・実体的な見方を働かせることができるよう意識して指導することが大切である。

## 【エネルギー】

\*ものづくりの活動においては、目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基づいた学習活動となるように指導していくとともに、実際に児童が作ったものが目的に合ったものであるかどうか振り返り、必要に応じて修正する活動を保証することが重要である。

\*実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにするために、根拠のある予想や仮説を設定し、図などで表現し、それを基に話し合う学習活動を展開し、児童が他者の予想の内容も捉えつつ、見通しを持って実験を構想できるようにすることが大切である。

## 【生命】

\*生き物の観察をする際には、観察者が自身の安全に留意すること、観察対象となる生き物の生活の邪魔にならないように観察するという観点に立ち、観察に必要な器具の設置方法や周辺環境にも注意を払うよう指導していくことが大切である。

\*調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析し、何を解決するための活動なのかを常に立ち返りとりえさせるとともに、共通点や差異点を見つけ出させるなど共通性、多様性を見方を働かせることが大切である。

## 【地球】

\*自然事象の知識理解については、例えば長雨や集中豪雨がもたらす川の増水の危険性について、日常生活と関連付けながら児童に予想させ、自分の予想だけでなく他者の予想の内容も踏まえて、実験や観察を行うことが重要である。

\*ICTの活用など、一人ひとりが必要な情報を得るための手立てを習得させるとともに、得た情報を比較したり、分析したりすることをおして、根拠をもって予想や仮説をたてること。その後実験や観察を行って得られた結果について、予想との共通点や差異点を見つけ出させ、なぜ違いが出たのかを考えさせるなど、結果の分析の仕方についても指導することが大切である。



# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

○学校の授業時間以外に、読書をしている児童が、国や県と比較し多い。日頃の読み聞かせボランティアの活用や、図書館指導員の図書館整備などの取組の成果といえる。

○学校以外での勉強時間が2時間以上と回答した児童が国や県と比較し多かった一方で、1時間未満の児童も国や県よりも多かった。家で教科書を用いて自学自習をする児童や、学校の授業の予習や復習をする児童が国や県よりも少ないことと合わせて考えると、塾での学習時間が多いことが予想される。

○5年生までの授業で、自分の考えが上手く伝わるような工夫をした表現活動の機会があり、できていたと自己評価している児童が国や県と比較し多かったことから、本市の教員の授業づくりの効果が見られるところである。

●自分には良いところがあると捉えている児童の割合が、国や県と比較し低い。また、先生が、自分の良いところを認めてくれていると捉えている児童の割合が低かった。

●教員がICTを活用した授業を実施している割合が、全国・県と比較し低かった。著しく低いわけではなかったが、学期に1回程度の実施にとどまっている割合も高かった。

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて市として取り組むこと

・読み聞かせボランティアの計画的な活用や、図書館の意図的計画的な活用を行っていく。  
・塾に通う、通わないで一定のレベルまでの学力に差が生じないようにするためにも、家庭学習が塾を利用していない児童にとってより取り組みやすいものとなるよう工夫していくことが求められる。家庭学習について個々の教員だけで取り組むのではなく、学校全体でそのあり方を見直していくなど、日常の取り組みとしてはこれまで同様進めながらも、児童や地域の実態に合わせたあり方についても少しずつ研究していく。

・小学校で身につけた技能を、6学年が終了し中学校に進んだ後も自信を持って出せるように、系統的、継続的な指導を行っていく。

・これまで各学校で行ってきた異年齢交流を今後も計画的に取り入れ、人の役に立ちたいという気持ちを持つ児童の意欲を育むとともに、褒める指導とも絡めながら、児童の自己肯定感の向上を図っていく。

・ICT環境の整備が全国と比較しかなり遅れている神奈川県内ではあるが、教員のICTの活用技能の差によって児童の学びに大きな差が出ないように、今ある環境を効果的に活用して様々な特性があるすべての児童にとって「わかる授業」づくりが行われるとともに、児童の学習活動が行われるよう教員の技能向上を図っていく。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|  |  |
|--|--|
| <p>結果の概要</p>                           | <p>国語 A 「主として知識に関する問題」の正答率は 73%、国語 B 「主として活用に関する問題」の正答率は 59%であり、全国、神奈川県の前平均正答率と比較してやや低い結果であった。</p> <p>領域的に見ても各領域、国及び県よりやや低い結果となっている。その中で国語 B 「書くこと」については、全国、神奈川県の前平均正答率と比較して 5 ポイント以上低い結果となっている。</p>   |
| <p>話すこと<br/>聞くこと</p>                   | <p>○「二人の質問の意図として適切なものを選択する」問題および「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」問題では 8 割を超える生徒が正答している。【B2 一・二】</p> <p>○「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」問題では県、全国平均より上回る結果であった。【A6 二】</p> <p>●「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」問題、および「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」問題では、県、全国平均より 5 %以上下回る結果であった。【B2 二三】</p>                                  |
| <p>書くこと</p>                            | <p>○「段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にする」ことは、県、全国平均を上回る結果であった。【A4 二】</p> <p>●「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題は、県、全国平均を約 10%下回る結果であった。【B3 三】</p>  |
| <p>読むこと</p>                            | <p>○「文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える」ことについては、県、全国平均を上回る結果であった。【A1 二】</p> <p>●「段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる」ことは、県、全国平均よりも約 5 %下回る結果であった。【A5 一】</p>   |
| <p>伝統的な言語文化と<br/>国語の特質に関する<br/>事項</p>  | <p>○「語句の辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を捉える」問題および「接続詞の働きについて理解する」問題では 8 割を超える生徒が正答している。【A7 一二】</p> <p>●「文脈に則して漢字を正しく書く」問題では、県、全国平均より下回る結果が大半であった。【A8 一二三】</p>   |
| <p>生徒質問紙<br/>国語に関連する質問<br/>問 52～56</p> | <p>「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか」という問いに対しては、肯定的な回答が約 75%であったことから、話し合う活動を通じて相手の考えを理解し、自分の考えにいかすことが概ねできていると考えられる。</p> <p>また、「1, 2 年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の問いに対して、否定的な回答をした生徒が、約 47%いることから、自分の考えを表現する力を高めることが課題であると考えられる。</p> |

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

話すこと・聞くことについて、話題や方向を捉えて的確に話したり、質問の意図を捉えたりする力が養われている。また、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する力が養われている。

読むことに関しては、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える力が養われている。

書くことについて、段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にする力が養われている一方で、「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」といった表現力には課題がある。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【話すこと、聞くこと】

目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする力を身に付けるために、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動や、互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動を意図的、計画的に位置づける必要がある。その際、話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えて話すように指導することや、状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするように指導することが重要である。

## 【書くこと】

事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように書く力を身に付けるために、分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりするように指導する必要がある。その際、ポスターやパンフレット、手紙、新聞などの多様な形式の中から、目的や効果を考慮して選択した上で、読み手に分かりやすく伝えるための記述や構成の工夫などについて考えるように指導することが大切である。また、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の指導との関連を図り、話し言葉と書き言葉との違いや、文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えたり、事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、実際の表現に生かしたりするように指導することも重要である。

## 【読むこと】

文章を読み、内容を的確に捉える力を身に付けるために、目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて内容を把握するように指導する必要がある。その際、部分ごとに内容を捉えたり、部分と部分との相互の関係を正しく押さえたりしながら読むように指導することが大切である。また、図表が示された文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えながら、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたいことをよりの確に読み取るように指導することが重要である。

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

語感を磨き語彙を豊かにするために、それぞれの語句が話や文章の中でどのように使われているか、自分が表現するときどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考えたり、学習してきた多様な語句を意識的に使用したりするように指導する必要がある。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 結果の概要                            | <p>○数学 A（主として知識）における、本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均に対して－1 ポイント、数学 B（主として活用）における本市の平均正答率は、全国平均、神奈川県平均に対して－2～3 ポイントとなっており、全国平均、神奈川県平均をやや下回る結果といえる。</p> <p>●基礎的・基本的な知識・技能は、一定の生徒には身につけていると言えるが、それを活用して思考する力（筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力）には、課題が見られる。</p>                          |
| (数学)<br>数と式                      | <p>○数直線上に示された負の整数を読み取ることについては、多くの生徒が理解できている。【A 1（1）】</p> <p>○単項式どうしの除法の計算については多くの生徒が理解できている。【A 3（2）】</p> <p>●絶対値の意味の理解について課題がある【A 1（2）】</p> <p>●ある基準に対して反対の方向や性質を持つ数量は正の数と負の数で表されることへの理解について課題がある。【A 1（4）】</p> <p>●事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することについて課題がある。【B 2（2）】</p> |
| (数学)<br>図形                       | <p>○ひし形は線対称な図形であり、点对称な図形でもあることを多くの生徒が理解できている。【A 4（1）】</p> <p>●直方体の空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であること）の理解について課題がある。【A 5（1）】</p> <p>●付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することについて課題がある。【B 4（3）】</p>  |
| (数学)<br>関数                       | <p>○グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することについて多くの生徒ができています。【B 3（2）】</p> <p>●事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することに課題がある。【B 3（1）】</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題がある。【B 3（3）】</p>   |
| (数学)<br>資料の活用                    | <p>●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由について説明することについて課題がある。【B 1（3）】</p> <p>●与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。【B 5（1）】</p>  |
| 生徒質問紙<br>数学に<br>関する質問<br>問 80～90 | <p>○「数学の勉強は好き」と回答している生徒は 60%程度、また「数学ができるようになりたいと思う」と回答している生徒は 90%程度で、全国、神奈川県と比べ高い割合である。</p> <p>○数学の勉強が大切だと考えている生徒は 80%程度と高い割合である。</p> <p>●授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒が、50%程度と他の質問に比べ割合が低くなっている。</p>   |

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを数学的に説明したり、表現したりする学習をより一層充実させる必要がある。

見いだした事柄や事実を説明できるよう、数量や図形などの考察対象や問題場面について、成り立つと予想される事柄や事実を見いだしたり、それを的確に捉え直し、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現できるようにするなど、論理的な思考力や表現力を育てる必要がある。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【数と式】

\* 正の数と負の数の範囲で、絶対値の意味の理解をできるようにするために、数直線上における原点からの距離が絶対値であることを指導することが大切である。

\* 実生活の様々な場面における数量やその変化を、正の数と負の数を用いて表す場面を設定し、ある基準に対して反対の方向や性質を持つ数量が正の数と負の数として表されるなど、その必要性について理解できるように指導することが大切である。

\* 事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが必要である。

## 【図形】

\* 立体の考察を通して、空間における直線や平面の位置関係を理解できるようにするために、空間図形の見取り図を見るだけでなく、身近な立体を見たり実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から空間図形を観察する場面を設定する必要がある。そういった活動を通して、空間における直線や平面の位置関係を理解できるように指導することが大切である。

\* 付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れる必要がある。その上で付加した条件の下で見いだした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切である。

## 【関数】

\* 問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、なにをどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を設定することが大切である。

## 【資料の活用】

\* 不確定な事象の起こりやすさについて判断し、その理由を説明できるようにするために、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する場面を設定する必要がある。

\* 実生活の場面で事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導することが大切である。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学理科）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>結果の概要</p>                          | <p>○主として「知識」に関する問題について、本市の平均正答率は 66%で、全国の平均より 1 ポイント低い、神奈川県平均と同程度の結果である。主として「活用」に関する問題については、全国平均、神奈川県平均より約 1～2 ポイント下回る結果である。</p> <p>●小学理科の結果同様、基礎的・基本的な知識は、一定数の生徒がほぼ身につけていると言えるが、日常生活などの場面で基礎的・基本的な知識・技能を活用したり、知識・技能を活用して観察・実験の結果などを分析して解釈する力が課題である。</p>             |
| <p>物理的領域</p>                          | <p>○テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる問題では、全国、県の正答率を 3 ポイント上回っている。【1（1）】</p> <p>○豆電球と豆電球型の LED の点頭の様子と電力との関係を指摘できる問題では、約 9 割の生徒が正答している。【6（3）】</p> <p>●実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる問題では、全国、県の正答率から 5 ポイント下回っている。【6（2）電流】</p>                                 |
| <p>化学的領域</p>                          | <p>○アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている問題は正答率が 85%あり、全国の正答率より 2 ポイント上回っている。【8（1）】</p> <p>●発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる問題では、全国、県の正答率より約 6 ポイント下回っている。【8（2）】</p> <p>●濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる問題については、全国の正答率より 10 ポイント、県の正答率より 5 ポイント下回っている。</p>       |
| <p>生物的領域</p>                          | <p>○1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる問題では、全国の正答率より 9%、上回っている【2（4）】</p> <p>○植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている問題では、85.6%の正答率になっている。【9（1）】</p> <p>●無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる問題では、全国、県の正答率より約 7 ポイント下回っている【2（1）】</p>  |
| <p>地学的領域</p>                          | <p>○緊急地震速報を受け取ってから S 波による揺れが始まる時間が最も長い観測地点を指摘できる問題では、全国、県の正答率より 3～5 ポイント上回っている。【7（2）】</p> <p>○太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている問題では、全国の正答率より 3 ポイント上回っている。【3（2）】</p> <p>●シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる問題では、全国の正答率から 2 ポイント、県の正答率より 3 ポイント下回っている。</p> |
| <p>生徒質問紙<br/>理科に関する質問<br/>問 38～51</p> | <p>○「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒が 53.4%いて、全国、県の平均より約 5 ポイント上回っている。</p> <p>○「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答が全国の平均より 4 ポイント上回っている。</p> <p>●「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答が 13.4%である。</p>                |

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

基礎的・基本的な知識の習得を図るとともに、得た知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、課題解決のための構想をたて実践し評価・改善する力を高める学習が一層必要となる。

単元の取組の中で生徒が、自らの考えを発表したり、他者の考えを聞いて自らの考えをより深めたりする学び合いが行われる授業づくりを図っていくことが大切である。

さらに、基礎的・基本的な知識・技能は単に身に付けているだけではなく、日常生活などにおいて課題を解決する場面で活用できるよう、実生活とも関連を持たせることが必要である。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

## 【物理的領域】

\* 仕組みや原理について実感が伴った理解が促されるよう、身近な物理的事象から問題を見出して課題を設定し、見通しをもって観察・実験を行えるよう学習内容と日常生活や社会とを関連付けるような教材の工夫が大切である。

\* 自転車のライトの豆電球とLEDの明るさの違いのように、生徒にとって身近なライトの明るさの違いを取り上げるなど、日常生活の中で見られる事象・現象に科学的な知識や概念を活用したり、関連付けたりすることで、興味や関心を向けさせるように指導することが大切である。

## 【化学的領域】

\* 習得した知識・技能の活用だけでは、探求が進まない場面では、書物などから先哲の考えに触れ、科学的に探究することも大切である。

\* 事件を計画して科学的に探究するうえで、「変える条件」と「変えない条件」を整理して計画することが大切である。また、実験を計画できるようにするには、「原因として考えらる要因」を見落としていないか、条件制御の観点からグループで話し合い、個人の考えを検討し、改善することが有効である。

## 【生物的領域】

\* 外からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応がおこることを、観察や実験、日常の経験などをおして離隔する学習場面を設定し、感覚器官や神経系の基礎的・基本的な知識を習得することは大切である。

\* 自然の事物や現象を科学的に探究するうえで、モデルを使った観察・実験を行い、実験の装置や操作と自然の事物や現象との対応を指摘する場面を設定するとよい。その際、自然の事物や事象と実験の装置や操作との関係を板書やワークシートに図示するなど視覚化することも大切である。

## 【地学的領域】

\* 気象現象を学習するにあたり、大気中で起こる様々な自然現象を空間的な広がりの中で捉えることは大切である。例えば、気象に関する複数の情報を基に気象現象を考えたり、説明したりする学習場面を設定するとよい。

\* 条件を制御してシミュレーションを行う学習では、まず、個人で考え、次に個人の考えをグループで実験の条件や結果に照らして適切であるかという視点から検討して改善することが大切である。

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「自分には、良いところがあると思いますか」の問いに対して、当てはまると回答した生徒の割合が、全国・県を大きく上回っていることから、自己肯定感が育っている生徒が多いことがいえる。
- 「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがありますか」や、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という問いに対して、当てはまる、参加したことがあると回答した生徒の割合が一定あることから、人の役に立つことの良さを感じている生徒が多いことがいえる。
- 教員が I C T を活用した授業を実施している割合が、全国・県と比較し大幅に高く、また、生徒が I C T を活用する学習活動を行った割合も同様に大幅に高かった。I C T 環境の整備が全国と比較しかなり遅れている神奈川県内において、本市の教員の授業づくり等に対する工夫が見受けられる。
- 学校の授業時間以外に勉強をする時間が全国・県と比較し高い割合を示していた。一方、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」や、「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」に対する回答は、全国・県と比べ、していると回答する割合が低かった。
- 褒める指導を教員はかなりの割合で「行っている」と捉えているが、生徒は、全国・県と比較しても、褒めてくれていると捉えていないことから、感覚のズレが見られる。
- 学習規律の維持を徹底していると捉えている教員が 100%であったのに対して、学校の規則を「守っている」と回答する生徒は半数を切っており、全国・県と比較しても大幅に低い割合であった。「学校の規則」は、学習規律だけではないことから、単純に比較はできないものの、感覚のズレが見られる。

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて市として取り組むこと

- ・これまで積極的に各学校で行われてきた異年齢交流を今後も計画的に取り入れていくことで、自己肯定感を育てていく。異年齢交流に取り組む際の個への目配りなど、取組に工夫をしていくことにより、当てはまると回答する生徒をさらに増やしていく。特に、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の問いに、当てはまらないと回答した生徒が多いことから、例えばチームで役割分担するなど、一人ひとりの生徒への声かけが十分に行われるように、教職員が事前に準備してチームで関わるなどの工夫が考えられる。
- ・異年齢交流などを通し、人の役に立ちたいという気持ちを持つ生徒の意欲を上手に育てていくことが必要と考える。このことが、前述した自己肯定感の向上にも繋がると考えられることから、褒める指導とも絡めながらより効果的な活動となるよう教員個々が具体的な関わり方をイメージしながら意図的な取組みとしていく。
- ・これまでも、全ての生徒にとって「分かる授業」を創っていくことを全ての教員が願い実践してきているが、その手法として教育委員会が段階的に整備を進める I C T を全ての教員が活用できるようにしていき、様々な特性がある生徒にとって理解を深める手立ての幅を広げる。
- ・家庭学習について個々の教員だけで取り組むのではなく、学校全体でそのあり方を見直していくなど、日常の取組みとしてはこれまで同様進めながらも、生徒や地域の実態に合わせたあり方についても少しずつ研究していく。
- ・教員と生徒との間に感覚のズレがあることから、教員側の自己点検が必要である。また、教員と生徒との間でのルールの共通理解徹底や、教員側の褒める技術の向上のための研修等を行っていく。